

令和6年  
1月21日(日)

午後1時00分～4時00分

開場12時20分～・手話通訳あり

■ 第1部：午後1時10分～2時10分

立川市域の中世石造物—調査成果の概要—

伊藤宏之(古代・中世部会 編集委員/大正大学文学部准教授)

■ 第2部：午後2時30分～3時30分

普濟寺六面石幢の造立背景

—埼玉県石幢との比較から—

村山 卓(古代・中世部会 特定部会委員/埼玉県埋蔵文化財調査事業団)

新編立川市史関連講演会  
中世立川の石造物



会場：女性総合センター・アイム1階ホール  
参加費無料・事前申込不要・先着150名

立川市曙町2丁目36-2  
JR立川駅より徒歩7分  
※施設の専用駐車場は  
ありません。公共交通  
機関でお越しください。



【主催・問い合わせ先】立川市産業文化スポーツ部市史編さん室

電話：042-523-2111(内線4044) メール：chiikibunka-t@city.tachikawa.lg.jp

右記QRコードまたは下記のアドレスから立川市のホームページ内にある立川市史のページへ移動します  
<https://www.city.tachikawa.lg.jp/chiikibunka/sisi/kouenkai.html>



**第1部 講師・伊藤宏之** 古代・中世部会 編集委員／大正大学文学部准教授

**午後1時10分～ 立川市域の中世石造物—調査成果の概要—**



中世に造立された石造物は、当時の立川市域に暮らした人々の様子を考える上でとても貴重な資料です。市域には、板碑や宝篋印塔・五輪塔といった石造物がありますが、なかでも普濟寺の国宝・六面石幢は地域の誇りとして知られた存在です。立川市域では、中世の文献史料が限られているため、このような石造物などを手がかりとして様々な観点から分析し、人々の活動や考えなどにアプローチしていく必要があります。市域にはどのような中世石造物が残されているのか、それらを概観して、さらにそこからどのような事が分かるのか考えてみたいと思います。

**第2部 講師・村山卓** 古代・中世部会 特定部会委員／埼玉県埋蔵文化財調査事業団

**午後2時30分～ 普濟寺六面石幢の造立背景—埼玉県の石幢との比較から—**



普濟寺の国宝・六面石幢は、独特の形や美しい彫刻から市域を代表する中世石塔といえるでしょう。その石材には埼玉県の秩父・比企地域に産する「緑泥片岩」という石が使われています。四天王や仁王の彫刻は他に類を見ない秀逸なものですが、一方で、緑泥片岩を組み合わせた六面石幢は、埼玉県内にもいくつかの類似例があります。市史の編さんに際しては、こういった類似の石幢についても調査を行いました。その成果を踏まえ、主に埼玉県の石幢とを比較をしつつ、普濟寺六面石幢の造立背景を探ってみたいと思います。

**会場のご案内**

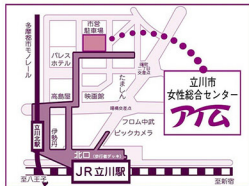
立川市女性総合センター・アイム 1階ホール  
立川市曙町2丁目36-2 JR立川駅より徒歩7分  
専用駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。

**多摩郷土誌フェアのご案内**

同日に第36回多摩郷土誌フェアが開催されます。講演会と合わせて是非お立ち寄りください。

【会期】令和6(2024)年1月20日(土)午前10時から午後5時、  
21日(日)午前10時から午後3時

【場所】立川市女性総合センター・アイム 1階ギャラリー



**立川市史刊行物の販売**

新編立川市史刊行物は多摩郷土誌フェアにて当日販売するほか、下記頒布場所でも好評発売中です。

【頒布場所】立川市役所本庁 3階市政情報コーナー、立川市歴史民俗資料館、オリオン書房ノルテ店、ジュンク堂書店立川高島屋店

資料編	価格	調査報告書	価格
先史	3,500円	先史編1 向郷遺跡 竹内勇貴氏寄贈資料調査報告書	1,000円
古代・中世	2,500円	先史編2 大和田遺跡	
近世1	2,500円	第1・3・4 地点発掘調査資料 再整理報告書	900円
近代2	2,500円	先史編3 立川市域の古墳時代	600円
現代1	2,500円	古代・中世編1 古代中世の考古・石造物・美術工芸	2,000円
柴崎の民俗	2,500円	近世編1 鈴木家文書目録	1,000円
残部僅少		民俗・地誌編1 砂川青年団資料集	1,500円
地図・絵図	3,000円	民俗・地誌編2 柴崎の口承文芸	600円